

と。私は心中不安だったんです。幹部の人たちから「あのとき、何事もないような顔をしていましたね」と言わされました。このことが一番大事だったと思われます。リーダーが心配しておろおろしていたら、全部がそうなつて、日曜日はゴルフ、夜は宴会で、何かあつた途端におろおろする。私は幸いなことにいろんな修羅場をくぐってきたんですね。そのため少々なことで揺るがない。ただ修羅場をくぐるとき、多くの人は「俺は修羅場をくぐつてきた」という人相になりますよね。それではダメですね。

### 今までくぐつてきた修羅場は・・

かつて得意先がよく倒産したんです。簡単に始められるんです。自動車一台と事務所があれば始められたんですね。「あの会社が潰れる」というと、取り立て屋という暴力団が臭いをかぎつけて入り込んでくるんです。そして優良な債権者を全部排除して全部持つてちゃう、これが普通になっていたんです。私どもの得意先にもよく入りました。そういうものに対して私は自分が矢面に出て、そういう人と対戦したんです。そのために私が監禁されたりしました。私は自分一人で行くんですけども、人を連れて行きますと、連れて行かれた方が脅かされて参っちゃうんです。

### 常識が通用しない相手との交渉は?

私は必ずやることがあるんですよ。椅子に

浅く腰をかけるんです。背もたれにもたれかからないんです。何時間でも背筋を伸ばして座っているんです。相手の顔を見て話をします。いろいろ要求されますが、それを何時間でも聞いて、「誠意を見せる」と言われます。「誠意って何ですか?」「そんなものわかっていないんですね、何ですか?」そんな体験をいくつも積み重ねてきますと、少々なことではビクビクしません。お金を払って済ますといふことはしなかった。これが、その度に私を鍛えてくれた出来事なんです。

### 15年で51億まで成長。重要視したこととは?

これは「商品開発」ですね。どういうものがお客様に好まれるのか?その点、私は一軒一軒方々を回って歩いていますから、「ちょっとした、こういうものがいれば良いのにな」とか、「こういうものをお客様が欲しがってました」とか、そういう話はよく入ってきますね。そういうものから作り上げたもの、ある小売店でお客様から要望されどこにもなくて困っている。私が「わかりました」と言って探してくる。そのときの喜び方が尋常じゃなかつた。これは多くの人が望んでいるんだと思つて、それはアメリカの商品として、輸入したら飛ぶように売れたんです。そういうことが重なりましたね。その商品はアメリカの軍用車につける甲高い音のラッパなんです。

# 便教会新聞

第139号

平成30年10月

## 改善

便教会は、教師の教師による教師のためのトイレ掃除に学ぶ会です。「方法論や技術や手法ではなく、ただ身を低くして実践あるのみ」の教育方針で、自らの人格を高めることを目的としています。

便教会新聞発行責任者 高野修滋  
〒四四五一〇八〇二  
愛知県西尾市米津町天竺桂二七  
携帯 090-4215-1727

の会が終わった後に残つて掃除をする。中学生の会が終わつた後に残つて掃除をする。中学生回目となり、毎回たくさんの方々の手助けのもと、子どもたちも少しづつ変わってきました。思い返すと5年前、本校は他に類を見ない荒れた状況にありました。学校が「荒れている」というよりも「すさんでいる」という言葉があつてました。私が赴任して美化担当を受け持つたのですが、前年度におられた先生方の引き継ぎは、学校現場ではあまり耳にしない「全員に掃除はさせない」という決定事項でした。授業後、ほとんどの生徒を帰して、掃除ができる一部の生徒だけで掃除をしよう、というものでした。放課になると、廊下で暴れ回り、鬼ごっこをしながら雑巾かけをしている生徒を飛び越えて帰っていく生徒達。今でもその光景は忘れられません。しかし、その時見えた一筋の光は、そのような状況でも黙々と掃除を続ける生徒がいたということです。衝撃的でした。

あの環境で、まわりに流されることなく、帰り

### 【本気の改善】

(熊本県) 荒尾市立荒尾海陽中学校

教頭 荒牧 義孝

荒尾海陽中学校で行う掃除に学ぶ会もはや5回目となり、毎回たくさんの方々の手助けのもと、子どもたちも少しづつ変わつてきました。思い返すと5年前、本校は他に類を見ない荒れた状況にありました。学校が「荒れている」というよりも「すさんでいる」という言葉があつてました。私が赴任して美化担当を受け持つたのですが、前年度におられた先生方の引き継ぎは、学校現場ではあまり耳にしない「全員に掃除はさせない」という決定事項でした。授業後、ほとんどの生徒を帰して、掃除ができる一部の生徒だけで掃除をしよう、というものがでました。放課になると、廊下で暴れ回り、鬼ごっこをしながら雑巾かけをしている生徒を飛び越えて帰っていく生徒達。今でもその光景は忘れられません。しかし、その時見えた一筋の光は、そのような状況でも黙々と掃除を続ける生徒がいたということです。衝撃的でした。

あの環境で、まわりに流されることなく、帰り

【編集後記】荒牧義孝先生の「本気の改善」を読んで泣きました。「掃除なんてさせられない」状態から「日本一の清掃」を目指して座っているんです。相手の顔を見て話をします。いろいろ要求されますが、それを何時間でも聞いて、「誠意って何ですか?」「そんなものわかっていないんですね、何ですか?」そんな体験をいくつも積み重ねてきますと、少々なことではビクビクしません。お金を払って済ますといふことはしなかった。これが、その度に私は現場の教師です。先生は子どもたちの夢、希望を双肩に担っています。生徒の笑顔、喜びは苦労の代償であり、教師冥利に尽きます。九月八日、第5回熊本便教会に参加したとき、生徒の表情は明るく、とっても素直でした。教師の教師による教師のためのトイレ掃除に学ぶ会、「便教会」は教師の資質向上、研修の場です。生徒と向き合うには、まず自分と向き合うことから始まります。頭でっかちで机上の空論では現場の問題は解決できず、下座に降り身を低くし心の重心を下げ、手足を使つて掃除をすると深いところから何かが沸き上がります。それが教師の資質向上の糧となり、生徒をリードする力となります。教師の「本気の改善」が「生徒たちが自分たちで改善」していくことにつながります。

ついでに、僕は便器も心もきれいに磨かれました。学校の掃除箇所はトイレなので、毎日15分間頑張るうことができました。トイレ掃除に学ぶ会に参加できることを心から嬉しく思いました。「郎トイレにつけた名前をきれいに磨けてよかったです」と多くの生徒たちが、自分自身の変容を書いていました。さらに、「これからは、普段からの掃除もきちんとしていこうと思いました。また、ゴミを見つけたら拾うなどして、掃除するときの負担を減らしていきたいと思いました。」とか、「今日学んだことを、一緒にトイレ掃除をしている友達に教えていこうと思います。」などといつた、まわりやこれからの行動を変えようとしている感想も多くありました。全校生徒に比べれば、わずか20数名の一部の生徒が、たしかに1回トイレ掃除を経験したことには過ぎないのかかもしれません。しかし、わずか1回の経験でも、「本物」を体験した子どもたちはその1回だけでも大きく変わっていき、まわりを変えていく力になることを実感しました。その証拠としてこれまで経験した先輩の生徒たちは生徒会の一員として学校の中心となり、3年生になったあとで何かを変えようとする行動をとつてくれました。1年目の生徒たちは全校清掃を学校に取

り戻し、2年目の生徒たちは無音清掃を後輩たちに伝え、3年目の生徒たちは、学校内だけではなく、学校外でもこれまで迷惑をかけた恩返しとして「地域の清掃を」という活動を行いました。昨年度の生徒会では地域にある荒尾駅の構内の清掃とトイレ清掃を行い、各部活動でも地域の施設を掃除したり、花植えのボランティアを行ったりしました。本年度は地域に住む独居老人宅を訪問し、一人暮らしで年末の大掃除がきちんとできずに困っているらしさるご家庭に出向いて、可能な限りの年末清掃に取り組もうと計画を進めています。もちろん、大きく荒れた学校全体が完全に落ち着いたわけではありません。まだまだ変わっていかなければならぬところはたくさんあります。しかし、それを私たち大人が直していくのではなく、生徒たちが自分たちで改善していくようになつたら、この便教会の取り組みがようやく一步前進したと言えるのかなと思っています。本当に少しずつですが、自分たちにできることをこつこつと続けることを目標に活動していきたいと思います。これまでご協力していただいている方々に感謝申し上げます。そしてこれからもよろしくお願ひいたします。

第5回熊本便教会は9月8日、荒尾海陽中学校で行われました。第1回の状況を知っている私にとては驚きました。『掃除で学校は変わる』これは本当のことです。教師が変われば子どもは変わる、学校が変わる。校風が必ず良くなります。

## 『続ける』

(熊本県) 和水町立三加和中学校  
教諭 坂井 ルミ

熊本便教会の立ち上げから五年が経ちました。

彼らは、『こつこつと続ける』をテーマに、小さくてもいい、継続することを大切にしていこうと歩んできました。毎日、学校で行われる十五分間の掃除でも実践できるような道具を使つて、こつこつと…。そして、会場は荒尾海陽中学校で継続して取り組みました。道具の関係、リーダーなどが無理なく計画できるように、毎回参加する人数は、六十名から七十名です。始めたころは、生徒会の役員を中心とした生徒たちの参加でしたが、今では自ら希望し、参加する生徒ばかりとなりました。日々の掃除も『無音清掃』を徹底して取り組んでおられます。五年前、一斉に掃除ができないような状態であったとは考えられません。トイレ掃除を続けることで、学校の空気が変わり、心が変わり、動きが変わったのです。先生方も、毎年入れ替わりはあるものの積極的に参加してくださいます。

学校で実践する中で感じていたのは、教師の姿です。実践者というよりは、生徒達への指示者となっていることが多いのです。まさに自分を見ているようでした。上から目線の自分を…。そして、自分ではなく、他の人を変えようとしている自分を…。

参加者が、「高野先生の言葉が心に突き刺さるようでした。」と話して来られました。この方も毎回参加いただいている方の一人です。そして職場でのことを「自分はよかれと思ってやつたことが、相手にとってはおせっかいになることもあります…」と言われました。「自分はやったのに…」ではなく、自分の行いを振り返ることができることが、感性の高まりではないかと思うのです。別の参加者の方は、「体はくたくたでしたが、心は軽かったです。」とおっしゃいました。トイレ掃除は心の掃除。終わった後は何でも吸収できる自分になっています。トイレ掃除を通して出会った本物の方々の行動を知つて、実際に見て、自分を反省するばかりです。トイレ掃除に出会つていなければ、自分は今、どんな人間になつていたのだろう…。かといって大変身を遂げた自分がいるわけ

## 『私の人生 その七』

日本を美しくする会  
相談役 鍵山秀三郎

### 私が判断するときの基準は「社員がこれで幸せになるかどうか」です。この仕事をして

いたら社員は絶対幸せになれない、誠実な仕事はできないと思いました。相手のご機嫌を伺つたり、ごまかすようになつたり、嘘をついたりするようになるでしょう。そんなこと

までして、仕事はするものじゃない。私はせつからく社風の良い会社にしようとしているのに、逆の方を向いて歩くことはしたくない。

これから鹿児島へ行くのに東北線に乗つていいようなことではダメです。やはり鈍行列車であつても東海道線に乗らなければ鹿児島に近づけない。速いからといって東北新幹線に乗つたんじゃ、反対になっちゃうんです。とにかくようなことではダメです。やはり鈍行列車に乗つたんじや、反対になっちゃうんです。どうなるだけでは広がらない。変わらない。自己満足で終わってしまう。自分と向き合う一番の近道であり、効果のあるトイレ掃除。『継続』とともに『広げる』を意識して歩み続けたい。いろいろなことを考えるのではなく、一粒一粒から種まきをし、掃除の素晴らしい力を実感してもらいたい、熊本のきれいと元気を広げていきました。

### 決断の経緯をもう少し詳しく…

商品を納入する方法とお店を借りて出店をして独自で商売する方法といろいろな方法がありました。それを合わせて約29億円ぐらいたつたんですが、その取引の過程においていろいろな過酷な要望が出ました。うちの会社はそれに耐えられる体質は持っていました

が、やがて耐えられなくなつたとき、社員が大変な苦労をすることを感じました。他の会社との取引を見ていますと、そういうことをひひひと感じたわけです。今ならまだやめることができます。でも、ずいぶんいろんな目に遭いました…。

### どんな目に遭われたんでしょうか。

興信所から銀行や取引先に「ローアルといふ会社は大丈夫か?」と五月雨式に問い合わせがあり、社員を含め、みんな心配になりましたよね。現にメーカーさんにいつものように注文したら、「ない」と言われ、いつに入るかと聞いたら、「そんなのわからない…」と。コロッと変わるんです。要するに信用不安ですよ。中には商品を引き上げに来る会社もあつたり、いろいろな目に遭いました。取引辞退を申し出た途端にそういう事態になつたんですね。興信所が毎日「あの会社(ローアル)は大丈夫か?」と来たら心配になりますよね。同じことでも一人、二人ならいいですけど、五人、十人から聞かれたら、だんだん心配になります。そういうことが方々で起きまして、商品が入つてこない…、入つてこないだけではなく、商品を持って行かれちゃう…、それが全部に広がつたと思ひます。後から聞きますと「私が何もないような顔をしていた